

神奈川県でJA横浜×Tsunagu×ドコモが 生産者と買い手のマッチングを行う「地元を食べよう」実証プロジェクトを実施 ～ドコモアグリガールがつなぐ JAの新鮮な産直野菜と新たな買い手企業～

横浜農業協同組合（以後、JA横浜）と、株式会社Tsunagu^{※1}（以下、Tsunagu）、株式会社NTTドコモ（以下、ドコモ）は、新たな食農流通および新たな物流の形をめざして、売り手となるJA・生産者と、買い手となる企業（食品加工、飲食店、ホテル、食堂など）とが直接売買できる農作物取引プラットフォームを活用した「地元を食べよう」実証プロジェクトを行います。

実証プロジェクトでは、あらかじめ指定した場所で作物の受け渡し・受け取りを行う「フード・アセンブリー方式」を採用し、物流の時間やコストを削減し、新鮮な作物を提供できる地産地消を目的としています。

生産者側は、「市場や卸などを通じて買い手が決まる」従来の商流にプラスして「事前にオンライン上で買い手との取引を確定させ、その作物をJA横浜の直売所などに持ち込み、直接買い手に渡す」という新しい商流を追加することで、新たな収益の確保をめざします。買い手側は、物流コストを削減し、新鮮で安定した量の取引を実現できるようになります。

買い手企業の開拓については、ドコモのアグリガール^{※2}および支社支店の担当者が行い、食を通じて地域を元気にしてまいります。今後は、NTTの研究所やグループ各社とも連携し、ICT・AI・ビッグデータ解析等の技術を当プラットフォームに取り込み、食農分野のデジタルトランスフォーメーションに取り組みます。

また、「おいしさの見える化」技術^{※3}を使った農作物の画像解析表示などの導入も検討してまいります。

※1 株式会社Tsunaguは、生産者と買い手をつなぐ農作物取引プラットフォームを企画・開発・運用する会社です。

<http://tsunagu.cc>

※2 アグリガールとは、NTTドコモにて農業ICTを推進する女性営業担当者の総称です。

※3 「おいしさの見える化」技術は、マクタアメニティ株式会社の提供する技術です。<http://makuta-amenity.com/>

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先

横浜農業協同組合 販売部販売課 TEL:045-805-6613	株式会社Tsunagu TEL:0544-21-0035	株式会社NTTドコモ第一法人営業部 地域協創・ICT推進室 TEL:03-5156-2511
--	---------------------------------	--

生産者と買い手のマッチングを行う「地元を食べよう」実証プロジェクトについて

1. 目的

- ・売り手となるJA・生産者と、買い手となる企業（食品加工、飲食店、ホテル、食堂など）とが直接売買する農作物取引プラットフォームの有用性の評価
- ・あらかじめ指定した場所で作物の受け渡し・受け取りを行う「フード・アセンブリー方式」による地産地消モデルの有用性の評価

2. 実証期間

2019年2月1日（金）～2019年3月31日（日）

3. 実証実験内容

① JAによる生産者の作物データ収集

プラットフォームを活用することで、生産者の作物の収穫・出荷状況データをJAにて集約する。これにより、計画的な販売が可能となるか検証する。また、実運用における課題を洗い出す。

② JA・生産者と買い手企業の取引

買い手企業のリクエストに対し、JA・生産者の売り手側が応えるというリクエスト方式と、従来の売り手から作物を提示するパターンとで取引を行う。リクエスト方式では、買い手側のマーケティング情報を知るとともに、新たな流通取引の可能性を検証する。

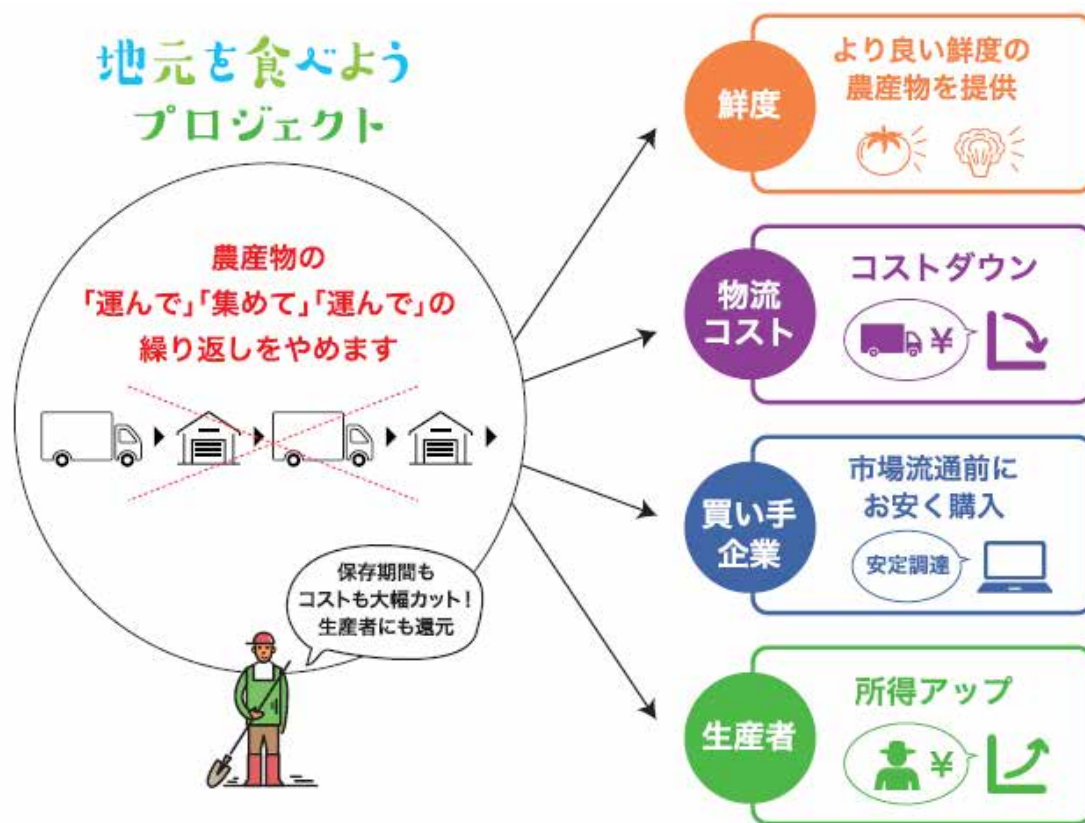
③ アセンブリー方式による作物の受け渡し・受け取り

あらかじめ指定した場所に生産者が作物を持ち込み、買い手側は取りに行く。顔を合わせることで取引の安全性が高まるとともに、物流コストを削減し、新鮮な作物を売買できる仕組みの可能性を検証する。

4. 参加法人パートナー（役割）

- JA横浜 : 生産者（組合員）の調整、取引場所の提供（横浜市泉区中田西1-12-10）
- Tsunagu : 仲介取引プラットフォームの開発・提供
- ドコモ : 地域JAの開拓、調整、買い手企業の開拓、調整
食農流通プラットフォームの開発支援

5. 実証コンセプト



<実証イメージ>

